

科目名	人事と組織の経済学
担当者	福島淑彦
配当学期	秋学期
単位	2単位
授業概要	人間にとって「働くこと」(労働)の最大の目的は「生計の維持」である。しかしそれだけではないであろう。「生きていくため」以外にも、働くことに意味を見出すことができる。例えば、①余暇の充実、②働くこと自体がもたらす満足、③社会への参加、などである。しかし、同じように「働く」といっても、年齢・性別によって賃金・給料は異なる。さらに、似たようなバックグラウンドを持っていても、仕事に就けている人とそうでない人(失業者)が存在する。本講義では、「働く人(労働者)」を取り囲む環境を経済学的な視点から理解・分析することを講義の目的とする。特に、労働者が置かれている環境(労働市場)をミクロ的視点から分析することに主眼を置く。
授業の到達目標	本講義では、個々の労働者間でどうして雇用環境や労働条件が異なるのか、労働者を雇う組織によって労働者の採用条件や採用基準がどうして異なるのか等について考察を加えていく。特に、「労働」を雇う組織の立場に重点を置き、主に組織内の人事・労務管理に関して学んでいく。具体的に、教育・訓練、昇進、査定システム、報酬体系などといった組織が行う雇用政策、人的資源のマネージメントなどを中心に考察を加えていく。本講義の目標・目的は、組織が行う様々な人事・労務管理のシステムやルールを理論的に分析、検証できる力を習得することである。
授業計画	(I) イントロダクション 概論 (第1回講義) (II) データで見る労働市場 (第2回講義～第3回講義) (III) 賃金、労働時間、雇用量の決定のメカニズム (第4回講義～第5回講義) (IV) 採用と求人 (第6回講義～第7回講義) (V) 査定、昇進、定年 (第8回講義～第9回講義) (VI) 転職と離職 (失業) (第10回講義～第11回講義) (VII) 教育・訓練と賃金・雇用条件 (人的資本論) (第12回講義～第14回講義) (VIII) まとめ (第15回講義)
教科書 (予定)	江口匡太著 「キャリア・リスクの経済学」生産性本部 2010年 ISBN978-4-8201-1931-9 Milgrom, P. & J. Roberts 著(奥野正寛他訳)「組織の経済学」NTT出版 1997年 ISBN 4-87188-536-4
参考文献	大竹文雄 (1998)、『労働経済学入門』、日本経済新聞社、ISBN 4-532-10762-8。 太田聰一・橋木俊詔 (2004)、『労働経済学入門』、有斐閣、ISBN 4-641-16222-0。 大森義明(2008)、『労働経済 Labor Economics』、日本評論社、ISBN 978-4-535-55566-2。 古郡鞆子(1998)、『働くことの経済学』、有斐閣ブックス、ISBN 4-641-08615-X。 Becker, G. S. (1964, 1994), <i>Human Capital 3rd Edition</i> , University of Chicago Press, ISBN 0-226-04120-4. Hart, R. A., and T. Moutos (1995), <i>Human Capital, Employment, and Bargaining</i> , Cambridge University Press, ISBN 0-521-06103-2.

成績評価方法	割合	評価基準
	試験 0 %	
	レポート 0 %	
	平常点評価 70 %	Assignment 毎回課題 (Assignment) を課し、それを提出して頂きます。提出された課題に対する解答が提出されたことを前提に講義を進めていく。
	その他 30 %	プレゼンテーション 講義の最後に受講生一人一人にプレゼンテーションが行う。テーマは講義と関連のあるトピックを一つ取り上げ、その経済問題に関する分析をプレゼンテーションという形で報告していただく。
関連 URL		
備考	<p>「基礎経済学」「経済政策」「公共経済学」等の経済学関連の科目を履修していることが望ましいですが、これらの科目を履修していない学生でも履修可能であるように講義は組み立てます。但し、受講生は課されたアサイメント(課題や論文通読等)を行うのはもちろんですが、積極的に準備を行って授業に望んで下さい。また、授業中に疑問に思ったことについても積極的に発言する受講生の履修を希望します。</p>	